

自分の学びを表現し、発信しよう！ (天皇を中心とした政治)

本単元で育成する資質・能力

「本質を志向する価値観」
「思考力・判断力・表現力」

1 日 時 令和2年6月25日(木) 5校時

2 学 年 第6学年 14名

3 単元観

学習指導要領 4 第6学年の内容(2)

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ)大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること。

(シ)遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)世の中の様子、人物の動きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

学習指導要領 1 第6学年の目標 学びに向かう力、人間性等

(3)社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切にして、国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

この単元の本質的な問いは、「どうして天皇中心の世の中にしようとしたのか。」である。

本単元は、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を調べることを通して、天皇を中心とした政治が確立されたことを考えさせる。また、調べたことを関連づけたり、総合的に考えさせたりすることで、我が国の歴史の展開について捉え、学んでいくことにもつながると考え、本小単元を設定した。

4 児童観・指導観

(1)実態調査をする

6年生になり、児童は初めての歴史学習をしている。学習に入る前に、歴史学習アンケートをとり、歴史のイメージや知っている時代について回答させた。その結果、江戸時代や戦国時代といった時代の名前や刀や侍、昔使っていた道具などの簡単な知識をもっていることがわかった。また、歴史についての本や漫画、番組などにふれたことがある児童は64%で歴史に興味を持っている児童が多くいることがわかった。しかし、一斉の単線型の単元計画において、その学びに参加しようとしなかったり、参加しても不満足に終わっていたりする児童の姿も見られるため、児童の意欲を学びにつなげられる個別最適化した学びの提供が求められる。

児童はこれまでに、「日本のあゆみ」の小単元「大昔のくらしとくにの統一」の学習をしてきている。縄文時代は、自然の恵みを生活の糧とする狩猟・採集、弥生時代になると農耕の生活、古墳時代になると権力の集中が顕著になり大和朝廷(大和政権)によるくにの統一が行われたことを押さえている。評価テストでは、知識・理解の平均85点に対し、思考・判断・表現は10点下回っていた。知識・理解は全員が80点以上である。であるが、思考・判断・表現は80点未満が4人で最低は40点であり、思考力・判断力・表現力における個人差が大きいことが明らかになった。特に、記述する問題での正答率は21%と低く、無答率も14%あり、資料から分かる事実を読み取ったりそのことから考えられることを表現したりすることに課題がある。

○対象児童の強みや特性

経験したことと学習を結び付けることで理解を深めることができる。資料などを読んで、理解ができないうきには、書いてあることを何度も読み返して理解しようとする真面目さがある。

○対象児童の学習のつまずきとその要因分析

①資料を読んで必要な情報をまとめるときには、ある単語からイメージしたことのみを書いており、情報をまとめることができていなかった。

・様々な資料から必要な言葉を取捨選択することが難しい、もしくは、長文を読むことが困難なのではないかと考えられる。

(2)実態調査を指導方法の工夫に活かす

○学習のつまずきを解消し学ぶ意欲を促すために

- ・学ぶ意欲を促すために、授業を自由進度学習で行い、自分のペースで学習を進められるようにする。
- ・スペシャル学習を設定したり、コースの中で人物関係図などの成果物を作ったりすることを通して、思考力・判断力・表現力を高めたい。
- ・自由進度学習を進めるにあたり、資料の提示の仕方を「この範囲でさがしてごらん」と助言したり、資料に付箋や印をつけて必要な範囲を視覚化したりして、対象児童が必要な言葉を取り出して調べることができるようにする。
- ・学習環境においては、児童が選択したそれぞれのコースでできた成果物を展示していき、「タイムスリップ部屋」を作る。お互いの成果物を見合ったり、歴史の出来事を体験的にとらえたりできるようにする。そうすることで、それぞれの時代の事柄のイメージを視覚的に把握することができると思う。

5 単元で育てたい資質・能力及び本単元の目標と評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 中大兄皇子や中臣鎌足が取り入れた税制や労働, 大陸からの文化の摂取によって強力な天皇中心の国づくりの基盤ができたことを理解している。 行基の協力を得て全国からたくさんの材料と人が集められて大仏が作られたことを理解している。 当時の食事の写真などから, 当時の人々の生活の様子や身分による違いについて読み取っている。 遣唐使が果たした役割について考え, 外国との交流が当時の国づくりに大きな役割を果たしていたことを理解している。 	<p>【資】思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子が行った政治のしくみを調べ, 聖徳太子がどのような国をめざしたのか考え, 表現している。 東大寺の大仏づくりにこめられた願いについて考え, 聖武天皇がどのように国を治めようとしたのかを考え, 表現している。 聖徳太子が目指した政治が, 中大兄皇子や聖武天皇の国づくりにどのように受け継がれているのかを考え, 表現している。 人物を調べることを通して, 当時の政治や国づくり, また, それぞれの関わりを考え, 表現している。 	<p>【資】本質を志向する価値観</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の想像図を比較することを通して, 聖徳太子が行った国づくりに関心をもっている。 自分の立てた学習計画に沿って学習をすすめている。

6 単元計画 (13 時間)


次	学習活動	指導上の留意点
1	<p>課題設定 2時間一斉指導 【学習課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通史で学習する内容を簡単に押さえる。 学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> NHK for Schoolや資料を用いて, 通史で学習することを通して, 「大陸文化の摂取」や「大化の改新」, 「大仏造営」の歴史的展開やそれらに関わった中心人物についておおまかに押さえる。 学習課題：飛鳥時代や奈良時代について学習しよう。 自由進度学習を行う10時間の中で, 3つのコースに分かれてそれぞれが飛鳥時代や奈良時代について学習していくことを確認する。その際に, 必ず10時間で自分の学びを完成させ, 表現・発信ができる状態にすることを約束する。なお10時間は単元計画表を見て学習計画を立てさせる。家庭でも学習を進めたがる児童もいるはずである。そういった学び方も認め, その分スペシャル学習を充実させる。 それぞれのコースについて知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ①人物探究コース・・・自由研究が得意な人向け 飛鳥時代と奈良時代に関わる7人の人物(聖徳太子・小野妹子・中大兄皇子・中臣鎌足・聖武天皇・行基・鑑真)について調べ, 関係図を作る。その際に, 【①名前の読み方。②いつごろ生きた人か。③何をした人か。④その人に関するトリビア情報】の4点を中心に調べたことを伝える。※関係図…目指したことで共通することはあるか つないだり囲んだりする。 ②歴史家コース・・・確実に着実に学習を進めたい人向け プリントの問いに沿って, 押さえるべき歴史の展開について調べたりまとめたりする。プリントを終えた後, 学んだことを表現するために, スペシャル学習に取り組む。スペシャル学習は, 【歴史上の人物を漢字一字で表してみよう, シルクロードを渡ってきた宝物の模型を作ってみよう, 飛鳥時代の食事の模型を作ってみよう, 歴史上の人物ゆるキャラ化】など, 1~2時間程度でできることを選択し, 取り組み, 学習の成果を表現する。もちろん, 児童が自分たちでできそうなことを考えても良いとする。 ③スペシャリストコース・・・一発勝負! 大胆な人向け 【大化の改新博士になろう】 ・大化の改新をカードゲームにして, 表現する。 【大仏スペシャリストになろう】 ・大仏が作られた時代の背景やそれに関わった人々について調べてまとめる。大仏の手の等身大パネルを作り, その大きさや特徴に着目する。 【三和小バージョン十七条の憲法をつくらう】 ・十七条の憲法が作られた歴史の背景を調べたり, どのように作られたか(何を参考にしたのか・大陸の文化の摂取・誰に向けて作られたのか)を参考にし, 自分が聖徳太子になりきって作ってみる。
2	<p>情報収集・整理分析 10時間自由進度 ・選んだコースで学</p>	<ul style="list-style-type: none"> 10時間を自由進度で行う。それぞれのコースで学習の手引きや学習計画を参考にしながら進める。10時間で自分の学びを完成させ, 表現・発信ができる状態になるよう, 児童への声かけや見取りを大切にする。

	習を進める。 まとめ・創造・表現 自由選択 ・スペシャル学習に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境としてパソコンなどのICTを自由に利用させる。 ・児童の学びを掲示物にして、学習環境の一部に取り入れ、学びを自然と共有できるようにする。 ・毎時間、学習進度や学び方の振り返りを行い、どのような学習が効果的だったか共有する。 ・児童の振り返りを毎回紹介し、評価を行う。 ・交流をする際には、その時代の特色をメモさせたり、自分の考えを書かせたりする。
3	実行・ふりかえり 1時間一斉指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に評価基準を示しておく。(パフォーマンス課題の欄を参照) ・単元全体を通した振り返りを書かせる。

7 パフォーマンス課題

飛鳥時代や奈良時代について学習し、自分の学びを表現し、発信しよう！

8 パフォーマンスの評価基準(ICE ルーブリック)

	I(個別の知識レベル)	C(関連付けられた知識レベル)	E(応用レベル)
評価基準	自分が選んだコースについて、最後まで仕上げ、学びを表現することができている。	自分が選んだコースやスペシャル学習に取り組み、そこで自分がまとめたり作成したりしたものの意図を学習内容と関連付けて説明することができる。	自分が選んだコースやスペシャル学習に取り組み、自分がまとめたり作成したりしたものの意図を学習内容と関連づけて説明し、さらに質問されたことについて答えることができる。質問されたことについて答えられない場合でも、どの資料をみれば解決できるかなど、学び方や調べ方を伝えることができる。
児童へ示す評価基準	自分が選んだコースの内容を最後まで仕上げ、発表したり紹介したりすることができている。	(Iに加えて) 自分が作成したものと学んだことを関係づけながら、表現・発表したり説明したりすることができている。	(Cに加えて) 質問に答えたり、答えられない場合でも、どの資料を見れば解決できるか、学び方や調べ方を伝えることができている。
反応例	<p>聖武天皇が仏教の力で国の人々を救おうと考えて造営しました。</p> 	<p>奈良時代は、飢饉や伝染病など災害に苦しんだ時代でした。聖武天皇は、仏教の教えによって国を守り、みんなが幸せに暮らせるように大仏造営を計画しました。</p>  <p>全長は15メートル！無限大の「宇宙」を表しているといわれています。</p>	<p>奈良時代は、飢饉や伝染病など災害に苦しんだ時代でした。聖武天皇は、仏教の教えによって国を守り、みんなが幸せに暮らせるように大仏造営を計画しました</p> <p>手のひらの大きさは約2.6m。等身大のパネルを作ったところ、6年生5人は余裕で乗ることができました！</p>  <p>奈良の大仏についてもっと詳しく知るには、聖武天皇の伝記やマンガを参考にしてみてください。 私は、98ページからの内容を参考にパネル作りとまとめをしました。</p>

9 本時までの児童の学び

※ここでは、一部のみを示す

A 児 [大化の改新博士になろうコース]

パソコンでカード作りを進めている。人物カードとイベントカードを完成させた。現在は、フィールドカードと宝物カードの作成に着手している。インターネットで、中臣鎌足の情報を収集し、カード作りに生かしているが、大化の改新の一部分にしか目を向けられていないので、大化の改新に関わる一連の改革にも広げさせていきたい。

B 児 [大化の改新博士になろうコース]

人物カードをパソコンを使って作成したところで終わっている。学習が停滞してきたときに、次のカードを作るために最初に配布した通史の資料を読み返して、大化の改新について把握しようとしていた。本時では、カード作りの続きをするだろう。それが停滞したときには、関連する資料に目を向けさせるように助言をする。

C 児 [人物探究コース]

教科書や資料集を使って、着実に学習を進めている。わからない語句については、説明がある箇所を教科書や資料集から見つけ出して、解決してからプリントにまとめている。まとめ方も、重要語句をペンで色をかえて分かりやすくまとめている。聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子についてまとめることができている。本時は、中臣鎌足について学習を進めるだろう。

D 児 [歴史家コース]

集中して、意欲的に学習を進めている。第1回では、「どのように調べたらよいか分かった」というふり返りができ、教科書を使うことで要点をまとめることができることに気づき、第2回ではプリント②③の2枚を終わらせることができた。計画していた以上にスムーズに学習を進めることができている。本時では、プリント④に取り組むほか、スペシャル学習を始めることができるかもしれない。(スペシャル学習の内容は聞いていない)

※以下は省略する

10 本時の展開

※単元内自由進度学習は、同時に多種多様な学びが展開されるため、ねらいも評価も各自によって異なる。そのため指導案上にもねらいと評価基準を記載しない。

展開	学習活動への支援		
1 評価	前時までの児童の振り返りから発見した学習方法や態度の学びについて授業者が評価を行う。		
2 進度確認	対象児童への手立て ※ 以下の支援を行う。	全体指導	アフォーダンスの視点から
3 調査活動 スペシャル学習	<ul style="list-style-type: none"> どこで悩んでいるかや、どの資料を使うと調べられるかを問い、問題の所在を明らかにする。 問題解決的な思考ができるよう、課題に対して予想をさせる。 困った時に教師に尋ねるだけでなく他の書籍を見たり、自分で掲示を見て回ったりするなどの自力での解決方法を促す。 児童の状況に合わせて、活動を促したり、課題解決に必要な資料をこちらから限定して提示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ自分の力で学習しよう。 調べる学習には教科書や資料集、掲示、インターネットなどの資料が使えますね。 どんな調査方法が効率よく学べるか考えよう。 今やっていることが学びになっているか自分で判断しよう。 スペシャル学習に取り組む児童 <ul style="list-style-type: none"> 最後にはどんなものに仕上げようと思っていますか。 作品段階（評価基準）のどこをねらいますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室や廊下に関係資料を掲示する。児童が資料に関心をもてるよう、児童の目の高さに資料を配置する。
4 振り返り	授業者が活動の中で見つけた学習方法や態度のよさについて評価を行う。児童も振り返りシートに学習方法や態度について振り返りを書く。		